

平成22年度鹿児島大学歯学部公開講座

著者	野口 和行
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	31
ページ	93-94
発行年	2011
URL	http://hdl.handle.net/10232/17046

平成22年度 度鹿児島大学歯学部公開講座

講座名：「口腔機能の回復と体の健康」

場所：沖縄県歯科医師会館

開催日時：平成22年11月14日(日) 10:00~13:00

主催：鹿児島大学歯学部

講座の開設趣旨・目的

口腔機能は、咀嚼、コミュニケーション、審美のうえで重要な役割を果たしています。近年口腔内の疾患、特に炎症性疾患あるいはその機能の喪失が、口腔内だけでなく、様々な全身の疾患に関連することが明らかにされつつあります。口腔内の疾患が直接的あるいは間接的に全身の健康を脅かしていると考えられており、適切な口腔内感染のコントロールおよび口腔機能の回復処置はますますその重要性を増してきています。また医科と歯科の連携医療が患者のQOL向上のために必要であることが認知されてきています。本講座は、「口腔機能の回復と体の健康」のテーマのもと、様々な立場から、口腔機能の回復および体の健康について最新の知見を提示し、参加者の今後の歯科医療活動に役立ててもらうことを目的としています。

受講対象者：歯科医師、歯科衛生士

募集人員：30人

プログラム

	司会・進行	野口 和行 教授
1. 開会の辞・挨拶	歯周病学分野	野口 和行 教授
2. 顔と表情の科学	人体構造解剖学分野	島田 和幸 教授
3. MIによる口腔機能回復 - 接着ブリッジの最新臨床	咬合機能補綴学分野	田中 卓男 教授
4. 咬合とブラキシズムの身体に対する意外な役割について	歯科矯正学分野	宮脇 正一 教授
5. 歯周病と糖尿病との関係	歯周病学分野	町頭 三保 講師

本年度の歯学部公開講座は、平成22年11月14日(日)に沖縄地区の32名の方々のご出席を得て、沖縄県歯科医師会館にて開催されました。事前登録を行っていましたが、当日参加の方も数名いらっしゃり、会場内はほぼ満席の状態、冷房を入れるほどの熱気となりました。



島田教授は、顔の形態・表情変化など、歯科治療に従事する者にとっても、よく理解すべき重要な問題点について最新の学説をもとに解説され、また、顔の加齢変化、顔の地域性、顔を若く保つ方法等についても講演されました。田中教授は、近年の歯科治療のコンセプトとなったMIを導入した接着ブリッジについて、接着システムの性能を最大限引き出すための重要なポイントをふまえ、設計から装着に至る最新の術式を、長期臨床例を交えながら講演されました。宮脇教授は、胃食道逆流症（GERD）と睡眠時ブラキシズムの関連性や咬合やブラキシズムが唾液や上部消化管へ及ぼす影響について講演されました。途中、特技の鮮やかな手品も披露され、出席者を沸かせました。町頭講師は、糖尿病と歯周病の相互関係や糖尿病患者の歯科治療時の配慮点について講演されました。

各講演に対して日常臨床に直結した質問があり、また講演終了後にも演者に直接熱心に質問する方もいらっしゃり、参加者のみなさんに有意義な公開講座となったのではないかと考えております。さらに鹿児島大学卒業生も集まり、よき交流の機会となりました。

今回の公開講座に際しては、沖縄県歯科医師会の暖かいご協力を賜り、御礼を申し上げます。また、公開講座の準備・実施に、ご尽力頂いた学内の関係各位に感謝申し上げます。



(世話人 野口和行)